

環境マネジメント

## 全店でISO14001の認証を取得しています。

平和堂は、環境の国際規格(ISO14001)の認証を本部および全店で認証取得しており、社長をトップとした組織体制で環境マネジメントシステム(EMS)を運用しています。2017年度は10項目の目標のうち、2項目で目標を大幅に上回り、3項目で目標達成しました。

しかし、配送車両の使用燃料の削減、レジ袋の使用重

量の削減、店頭リサイクルの推進、平和堂エコピースクラブの拡大、平和の森づくりの推進については目標未達成でした。

それぞれの原因分析と共に、2018年度は3ヶ年計画の初年度として目標の見直しと、目標達成できる取組みを進めていきます。

▶2016年度の実績と2017年度の目標

◎ 目標を大幅に上回る ○ 目標達成 △ 目標未達 ✕ 目標を大幅に下回る

環境方針	2017年度目的・目標	2017年度実績	2018年度目的・目標
環境に配慮した商品づくりと提供を推進します	環境配慮型商品の販売拡大 環境セレクトの御奉仕高向上 環境セレクトの認知度向上 2016年度実績 114.6億円	115億円 12,053,032千円 (昨年比:105.1%)	◎ 環境配慮型商品の販売拡大 環境セレクトの御奉仕高向上 環境セレクトの認知度向上 123億円
省エネルギー・省資源を推進します	一次エネルギー使用量の削減 (電気・ガス・石油類) エコストア省エネ設備導入推進 2016年度対比(原単位)kwh/h・㎡	1%削減 0.072kwh/h・㎡ 1.60%削減(原単位) (昨年:0.073kwh/h・㎡)	○ 一次エネルギー使用量の削減 (電気・ガス・石油類) エコストア省エネ設備導入推進 (原単位)2017年度対比 1%削減
	配送車両の使用燃料の削減 センター集荷便数2016年度対比 (1店舗あたり月平均)	1%削減 年度計便数 平均 188便 (昨年比101.4%)	✕ 配送車両の使用燃料の削減 センター集荷便数2017年度対比 (1店舗あたり月平均) 1%削減
	水道使用量の削減 2016年度対比(原単位)ℓ/h・㎡	1%削減 0.334ℓ/h・㎡ 2.67%削減(原単位)	○ 水道使用量の削減 (原単位)2017年度対比 1%削減
地球温暖化防止のため、CO <sub>2</sub> 排出量を削減します	レジ袋の使用重量の削減 2016年度対比(原単位)kg/億円 (御奉仕高1億円当り)	1%削減 172.4kg/億円 0.2%増加(原単位)	✕ 紙の使用量削減 コピー用紙・POP用紙使用枚数 2017年度対比既存店総枚数/枚 1%削減
	CO <sub>2</sub> 排出量の削減 原単位排出量2005年度対比(原単位) t-CO <sub>2</sub> /h・㎡ 2005年度:55.183t-CO <sub>2</sub> /h・㎡	39%削減 33.564t-CO <sub>2</sub> /h・㎡ 39.2%削減	○ CO <sub>2</sub> 排出量の削減 (原単位)2017年度対比
廃棄物の削減と資源の有効活用に取り組みます	生ゴミのリサイクル率の向上 2016年度実績 56.7% (魚アラ・廃食油リサイクル等)	58% 62.0% (昨年比109.3%)	◎ 生ゴミのリサイクル率の向上 生ゴミ・魚アラ・廃食油リサイクルの推進 62.3%
	店頭回収リサイクルの推進 古紙回収ステーションの設置店舗数拡大 (2016年度 55店舗)	58店舗 57店舗	△
地域社会の環境保全活動を支援します	平和堂エコピースクラブの拡大 こども環境学習への参加団体の増加 2016年度実績98団体	110団体 累計実施回数100回 97団体	△ 平和堂エコピースクラブの拡大 こども環境学習への参加団体の増加 100団体
	平和の森づくりの推進 森づくり活動への参加人数の拡大 2016年度実績875名	900人 709人 6回実施 (雨天中止2回)	✕

環境会計

## 環境に配慮した経営を効率的に推進しています。

平和堂では、環境保全のための投資や費用を定量的に管理し、その効果を金額として把握することで、取組みの一層の効率化を図るとともに、合理的な意思決定を行うための環境会計に取り組んでいます。

空調設備について、2016年度は保全点検の実施年

でしたが、2017年度は非実施年であったため、公害防止コストは減少となりました。

また容器包装については、新店の増加や一部期間のズレにより使用重量が増加し、上・下流コストも増加となりました。

集計範囲 株式会社平和堂(単体) 対象期間 2017年2月21日~2018年2月20日

▶環境保全コスト

分類	主な取組み内容	2016年度		2017年度	
		投資額	費用額	投資額	費用額
(1) 事業エリア内コスト		1,309,997	954,305	1,080,100	933,185
内訳	(1)-1 公害防止コスト		155,550		137,092
	(1)-2 地球環境保全コスト	1,309,997	560	1,080,100	800
	(1)-3 資源循環コスト		798,195		795,293
(2) 上・下流コスト	容器包装リサイクル法再商品化委託料・お買い物袋持参エコポイント費		174,946		191,914
(3) 管理活動コスト	ISO審査登録コスト・専任者人件費 社員教育・CSR報告書作成費		34,485		33,294
(4) 研究開発コスト		-	-	-	-
(5) 社会活動コスト	平和の森づくり・有料レジ袋収益金寄附 環境展・子ども環境学習		14,481		15,859
(6) 環境損傷対応コスト		-	-	-	-
合計		1,309,997	1,178,217	1,080,100	1,174,252

■環境保全効果

①事業エリア内コストに対応する効果

分類	環境パフォーマンス指標(単位)	2016年度	2017年度
事業活動に投入する資源に関する効果	電気使用量 (MWh)	288,441	282,629
	ガス使用量 (千m <sup>3</sup> )	3,188	2,810
	重油・灯油使用量 (kl)	1,588	1,675
事業活動から排出する環境負荷及び廃棄物に関する効果	軽油使用量 (kl)	5,700	5,434
	水道使用量 (千m <sup>3</sup> )	1,599	1,544
	CO <sub>2</sub> 排出量 (t-CO <sub>2</sub> )	162,235	160,827
	廃棄物総排出量 (t)	33,406	32,843
	廃棄物最終処分量 (t)	9,761	9,105
	排水量 (千m <sup>3</sup> )	1,599	1,544

②上・下流コストに対応する効果

分類	環境パフォーマンス指標(単位)	2016年度	2017年度
事業活動から産出する財・サービスに関する効果	レジ袋使用削減枚数(千枚)	184,785	182,443
	牛乳パック回収量(t)	256	256
	食品トレイ回収量(t)	690	681
	ペットボトル回収量(t)	1,047	1,579

■環境保全対策にともなう経済効果

(単位:千円)

効果の内容	2016年度	2017年度
収益		
店頭回収品リサイクル売却益	31,580	33,689
有料レジ袋収益金	6,576	6,635
費用節減		
省エネ設備導入効果	126,888	110,028
お買い物袋持参推進によるレジ袋費の節減	452,792	450,514
レジ袋使用減による容リ法再商品化委託料の節減	41,932	47,002
リサイクル推進による廃棄物処理費の節減	10,548	10,613
合計	670,316	658,481